その大事業の端緒を開くのはまさに此の時からのことである。

四　飛躍の第一歩

當時彼の年齢は二十五歳に當つて居る。尤もこれより以前卽ち二十三歳の時に、彼の妃の父で其の頃サマルカンドに權力を擅にして居つたクルガンといふ人の命によつて、千騎ばかりに將として、波斯の東方コラッサンを征伐して成功し、此の時早くもその地を自分のものにしやうといふ野心を抱いて居つたが、それはクルガンが殺されたが爲に、目的を達せず、本國に歸つて來た。しかし此の征伐はとにかく人に命ぜられて行つたことでもあるから、暫らく彼の事業の第一歩には數へまい。さてハジ・ベルラスは東部察合臺國王の侵入を聞いて一度は之に對抗の準備もしたが、半にして軍を散じて南に向つて逃げてしまつた。無論帖木兒も叔父と行動を共にしたが、途中彼の才略はみすみす無爲に落ち行くことの愚を悟つたものと見えて、アム河の邊で叔父に別れて引き返し、必然悲酸の運命に陷るべき本國の人間を救はうと決心した。そうしてその方法は軍を募つて敵を逆へる普通手段ではなく自から身を挺して敵軍に投じ、三寸の舌鋒をふるつて大敵の侵入を喰ひ止める策略であつた。或る著者によると頻りに彼の雄辯を推奬して居るが、果してその爲か或は人を動かす熱誠のあつた爲でもあらうか、見事に彼の計畫は成就して、彼は敵の大將からケシュの支配を托せらるゝことになつた。これが抑も彼の活動の第一の事件と目すべきものであらう。しかしながら此のケシュ支配のことはまだ直接王から任命せられたものではなかつた。千三百六十一年にトグルク・チムール王が再びサマルカンドに擊ち入つた時に、帖木兒は王の侍臣で非常に權力のあつたハミッド